

# 政界展望



ジャーナリスト

鈴木哲夫



# 勝者なき参院選？



安倍首相は勝利というが…

が、改憲に前向き  
3分の2が必要だ  
は発議に参議院で

憲法改正について  
相が明言している  
さらには、安倍首

う状態になったの  
だ。

議席から9減らし  
てしまった。これ  
によって自民党単  
独では参議院の過  
半数はなく公明党  
と合わせてようやく  
過半数。つまり、  
法案を通すにも公  
明党の協力がなけ  
ればならないとい  
う状態になったの  
だ。

中身を様々分析して行くと確かに分  
かる。安倍首相の政権運営は決して  
楽なものではない。

と漏らしたのは、こうした選挙戦の  
「自民党幹部が「勝った実感がな  
い」

敗を喫したのだった。  
幹部は話していたものの、結果は10  
敗、野党統一候補に逆転された。当  
初、全国32の1人区は「うちは4敗  
ぐらいで済むだろう」と自民党選対  
幹部は話していたものの、結果は10  
敗を喫したのだった。  
だが、内容はそう単純ではない。  
「老後生きて行くために2000  
万円の貯蓄が必要」という金融庁報  
告書などが有権者の年金不安などを  
招いて逆風となり、東北を中心に自  
民党は選挙前の優位な戦況から一  
転、野党統一候補に逆転された。当  
初、全国32の1人区は「うちは4敗  
ぐらいで済むだろう」と自民党選対  
幹部は話していたものの、結果は10  
敗を喫したのだった。

7月21日に投開票された政治決  
戦、参院選は一体誰が勝利したのか。  
自公の連立政権与党は合計で改選議  
席の過半数を獲得し、非改選と合わ  
せて参議院では自公で安定過半数を  
占めることになった。新聞やテレビ  
ニュース番組の見出しは「自公の勝  
利」だった。  
ところがある自民党幹部は「勝っ  
た実感がない」と私に言った。

なぜそんな言葉が口を突いて出た  
のか。  
参院選の獲得議席は、自民党が  
57、公明党14、立憲民主党17、日本  
維新の会10、野党統一候補を含む無  
所属9、共産党7、国民民主党6、  
れいわ新選組2、社民党1、NHK  
から国民を守る党1。  
確かに自公の勝利と言えば勝利だ  
が、じつは自民党単独で見ると改選

とされる日本維新の会を合わせても  
3分の2には達しなかった。つまり、  
安倍首相が半ば公約としてきた改憲  
を実現できないということになる。  
また32ある1人区についてはどう  
だったか。すべて、自民党と野党統  
一候補の一騎打ちになった今回。自  
民党の22勝10敗でこれも単純に数字  
を見ると自民党の勝ち。



## 公明党「14議席」でも 深刻な舞台裏

こちらも表面的には勝利に見えるが、その実情は決してそうではないのが公明党だろう。

「議席数ではない。問題は比例票なんだ」

公明党のベテラン議員はそう話す。

今回の参院選で、選挙区7、比例7の、合わせて14議席を公明党は獲



公明党はキャスティングボードを握るのか

得した。

投票票翌日7月22日付の機関紙、公明新聞はこう書いた。

《結党以来、過去最多議席に並ぶ歴史的な金字塔を打ち立てることができた。(中略)前回に続き過去最高となる14議席を勝ち取った。非改選の14議席を合わせた28議席は、1977年の参院選で達して以来の陣容だ》

だが前出ベテランが言う比例票を見てみよう。

今回公明党の比例票は約654万票だったが、前回の2016年に比べて約104万票も減らした。

公明党の比例票についてはこれまでに党内の大方針として「700万票ライン」というのがある。

最大の支持団体である創価学会の組織票、つまり「雨が降っても槍が降っても必ず投票に行く組織票」が700万票あり、それにさらに選挙運動を拡大して800万、900万と積み上げて行くのが基本戦略だったのである。

ところが、2017年の衆院選では比例票がその700万票を切ってしまう、今回さらにそれを下回りそ

のラインに遠く届かなかった。組織票、支持拡大票を合わせてもはや700万票に到達しないというのはかなり深刻な事態なのだ。

ある公明党幹部は、「冷静に見れば、今回は全体の投票率がかなり低かったことで相対的に組織票があるうちが押し上げられた形だ。選挙区では兵庫と大阪は本当に最後まで危なかった。どれだけの数の学会員が投入されて必死でやったことか」と振り返り、低投票率に助けられた側面も大きいとの見方を示している。

そして、学会の関東地区の支部幹部はこう明かしてくれた。

「700万という生命線だった基礎票が確実に落ちてきているのは、組織の高齢化や世代交代がうまく行っていないことも要因の一つだろう。さらに長い安倍政権との連立で、安全保障や経済政策で自民党に追隨していることで特に婦人部などには不満もずいぶん溜まっている。こうした部分をもう一度立て直して行かなければならない。次は総選挙が必ずやってくる。小選挙区の議席は絶対に対に落とせない。とにかく総選挙までは、平和や大衆と共にといった公

明党の原点復帰で学会員の気持ちをもう一度ひとつにして組織を立て直すしかない」

そうなるかと…

「支援者の中にアレルギーが強い9条を含めた憲法改正については次の総選挙までうちは発議など絶対にノー。マスコミ報道では改憲勢力にカウントされているが大間違い」(同支部幹部)

あらゆる政局の場面や政策などで、公明党は組織再建のため存在感を示そうと「政権内野党の姿勢をより強く出して行くことになるだろう」(同支部幹部)。

そもそも、今回自民党は単独過半数を失った。改憲どころではないのだ。通常の法案なども公明党の協力なくしては参議院を通せないのだ。安倍政権はこれまで以上に公明党に気を遣わざるを得ない。

また、解散の時期についても、公明党は東京12区で大ベテランの太田昭宏元国交相が代替わりしたり、大阪を中心に近畿の選挙区では維新と





太田昭宏元国土交通大臣

「とにかく一番のポイントになるのは、安倍さんが4選を目指すかどうかということだ。もしそう決断したら、4選の流れを党内で納得させるためには総裁選直近の総選挙で大勝すること、これが絶対条件になってくる。つい最近まで今年の9月に解散・総選挙をやるのではないかという見方もあったが、そこでいくら勝ったとしても総裁

選の2021年9月まで2年もあって、アピールするには時間が空き過ぎる。解散は1回。そうなると解散のタイミングは1年ちよつと後の来年の秋辺りしかないんじゃないか」(同ベテラン)

来年の秋なら五輪が終わった直後、まだ世の中はお祭りムードは残っている。消費税10%の後遺症もその頃には消え、もし引きずっていたとしても、ポイント還元など経済政策、バラマキ政策を延長すればいい。解散の大義も都合のいいものをそのと

きに探せばいい。そこを過ぎて翌年の2021年に入ると前述のようにまたまたタイミングは難しくなってきた。これがこの大ベテランの見立てだ。

ただ、一方で、安倍首相がもしかすると4選を目指す可能性もあるという。

「憲法改正などにめどが立たなくなつて、安倍さんは、もういいと思ふかもしれない。長年の健康問題だってあるかもしれない。そのときには、2021年の任期いっぱい務めて新しい総裁で総選挙ということもありかもしれないし、五輪が終

の住み分けや駆け引きが落ちていない現状では「解散は反対」(前出公明党幹部)で、安倍首相の解散シナリオにも影響を及ぼすことになる。

その解散だが、安倍首相と通じる

「解散は、首相が本場に4選を考えているのか、それとセットで決まる」

自民党の総裁任期は元々1期3年で2選までだったが、それを安倍体

制になって規約を変え3選にまで伸ばした。

現在の安倍首相の総裁任期は2021年9月まで、あと約2年だ。かたや衆議院議員の任期は2021年の10月まで。

安倍首相がさらに長期政権を狙うと決めたなら、党内を黙らせ、或いはコンセンサスを得て規約を改定して4選まで伸ばさなければならぬが、その最も大きな材料が総裁選に近段階での総選挙で大勝することだ。選挙に勝てば誰も文

句は言えない。

「とにかく一番のポイントになるのは、安倍さんが4選を目指すかどうかということだ。もしそう決断したら、4選の流れを党内で納得させるためには総裁選直近の総選挙で大勝すること、これが絶対条件になってくる。つい最近まで今年の9月に解散・総選挙をやるのではないかという見方もあったが、そこでいくら勝ったとしても総裁

選の2021年9月まで2年もあって、アピールするには時間が空き過ぎる。解散は1回。そうなると解散のタイミングは1年ちよつと後の来年の秋辺りしかないんじゃないか」(同ベテラン)

4選、それに伴う解散、憲法改正。こうした政治テーマに直面して行く安倍首相。そしてそこには、足元の公明党の事情も絡んで政権運営がままならぬ場面も出てきそうだ。

れいわは野党結集の起爆剤になれるか

一方の野党。

立憲民主党は議席を改選前から約倍増したというものの、戦前のマスコミ各社の世論調査などが弾き出していた議席数には及ばず、比例票は立憲が発足した2017年の総選挙に比べて約300万票も減らしている。野党としての期待感は薄まってきた。

また、国民民主党は政党支持率をそのまま反映して厳しい戦いだつた。

何とか野党5党派がまとまって





れいわ新選組 山本太郎代表



郎さんや同じ会派だった国民民主党の方々や話すと掘り起こしは難しいだろうと。でも私は、できる、それをやらせてくださいと言ってきました」

そして選挙では見事にそれを実現した。

東京選挙区から比例に回った山本氏が何と99万票以上という2001年に参院比例で非拘束名簿式が導入されて以降の最多を記録した。

れいわが獲得したのは2議席。ただし、今回から導入された特定枠1位に筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の船後靖彦氏、同2位に重度障害者の木村英子氏を擁立していたためにこの2人が当選。山本氏は落選した。

じつは特定枠というのは、自民党が今回合区ではじき出された現職を救済するために作った制度と言ってもいい。ところが山本氏のしたたかさ、その制度を批判するどころかちゃっかりと使って、何と重度障害者を議員として送り込んだのだっ

候補を一本化した32の1人区。自民優位をひっくり返しての10勝は評価もあるが…。

「東北地方では青森と福島、東海地方では三重など、各党のしっかりした協力関係ができれば勝っていた。立憲と国民の間には、希望の党の失敗以降の感情的対立が残ってい

るほか、共産党と表立っては共闘しないなどまとまりがなかった」(市民連合幹部)

自公のように、野党各党もまた残された課題は多い。そうした中で注目はれいわ新選組だろう。

公示日前日に、私は山本太郎代表

と一対一で話を聞くことができた。

「私はどちらかというと、与野党の持っているバイを削りに行こうという気はさらさらしない。そんなセコイことをしようと思っていません。やろうと思ってるのは、いま政治に関心を持ってない人たちの浮動票に対して語りかけたい。小沢一



勝者なき参院選のあとに来るものは

ほかに安の家賃の公的住宅の拡充、奨学金返済免除、全国一律最低賃金時給1500円、必要なら財源には新規国債発行などを主張。これまでの安倍一強政権と大企業など社会的強者が独占する政治に対して、平等社会を求め層の思いに訴え、票を獲得した。各国で起きつつある「左派ポピュリズム」の胎動にも似ている。

自民党の閣僚経験も

た。軽度の障害者ならまだしも重度障害者などという候補選定の決断は既成政党にはとても真似できない。この2人の当選で国会や永田町のシヨックは大きく、これまで日本の政治が障害者などいかに開かれていなかったかがその後毎日のようにあぶり出されている。

また、私が取材した山本氏の街頭演説にはあつという間にざつと1000人は集まった。

それは、立憲や国民、共産といった既成野党の組織票の支援者や労働組合員ではなく、これまで選挙に行かなかったという若者をはじめ、非正規社員、久々に街頭演説を見に来たという中年サラリーマンの姿もあった。確かに民主党政権交代後の政治に失望して動かなかった層の有権者を山本氏は動かした。

政策は消費税ゼロという衝撃的なもの。有識者と議論を重ね、しっかりと打ち立てた。この

あるベテランは「アメリカの大統領選のバーニー・サンダース現象のような若者や社会的弱者の票を掘り起こしたと見るべきだろう」と山本氏を高く評価した上で、「山本氏の政治センスは高い。政治家の勝負どころやケンカのやり方も知っている。テレビでは政党要件を満たしていないからとその他扱いだったが、ネットやスポーツ紙、週刊誌などを通じて発信した。次の総選挙で小選挙区にれいわの候補を立てられたら、無党派が多い東京なんかはずいぶんやられる」と強い警戒感を示しているほどだ。

山本氏は選挙後には自らの落選は想定済みとばかりに次を語った。「総選挙に出る。れいわで1000人擁立。ただし、野党が1つになるのが望ましい。それなら野党みんなで協力して、それができなければ単独で出す」

山本氏は、れいわ単独で政権獲得に行こうというのではない。力と勢いで野党結集の後押し、尻叩きをしようにというのが狙いだ。現に今回の参院選の最中には、山本氏は、選挙区に出馬している共産党候補や立憲

民主党候補の応援に入って並んで演説した。宮城などは立憲候補を勝たせる原動力となった。

「じつは、本来それを野党全体のリーダーである立憲民主党の枝野幸男代表がやるべきだったんです。枝野さんが野党結集のためにやるべき役目を山本さんが形で示したということですよ」（国民民主党幹部）

参院選後には、野党各党から山本氏に対して「コミュニケーションを深めたい」（国民民主党・玉木雄一郎代表）、「力を合わせて行きたい」というのが私たちの願い」（共産党・志位和夫委員長）など共闘や結集への動きが出ている。

山本氏自身がどこに出馬するか。「どこに出るかはギリギリまで言わない。そっちのほうが楽しいでしょう」と本人は笑うが、前出の自民党閣僚経験者は「たとえば安倍首相のところとか、小泉進次郎氏のところとかとにかく野党結集のインパクトを考えるだろう」と予測する。

参院選は永田町に新たなパワーバランスを生んだ。

（了）

